

平成 29 年度 ASEAN 向け省エネ支援事業の最終会合を実施しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託を受けて、2018 年 2 月 27 日・28 日の 2 日間、マレーシア・クアラルンプールにて AJEEP(ASEAN-JAPAN Energy Efficiency Partnership) 最終会合を開催し、ASEAN 各国との間で今年度の事業実施内容の結果と課題について討議を行いました。

- (1) 新スキーム 2 はエネルギー管理士指導者育成プログラムの 2 年目を実施し、7 カ国と ACE からの受講者 11 名に ASEAN トレーナー資格を付与
- (2) スキーム 3 は、カンボジア・ラオスを対象に省エネ法制度整備を推進



参加者全員写真



オープニングスピーチ（ホスト国マレーシア）



オープニングスピーチ（ECCJ）



討議風景



トレーナー資格授与



今年度事業成果のまとめ、課題の明確化及び対応策の共有化のための会議（マレーシア・クアラルンプール）を開催しました。会議には ASEAN 各国（2 カ国不参加）から ASEAN 省エネルギー部会（EE&C-SSN）の代表（Focal Point 又はその代理）及び ACE が参加し、今年度事業の実施結果を総括しました。

- (1) スキーム 2 はエネルギー管理士指導者育成事業の 2 年目を実施。7 カ国と ACE からの受講者 11 名に ASEAN トレーナー資格を付与した。全コース修了に及ばなかった受講者に対する救済措置のあり方等を議論、本年限りという条件で対策が承認された。省エネ診断レポートの提出、熱・電気技術の筆記試験の実施で追加評価を行う。実践訓練施設として、タイに加えてベトナムのトレーニングセンターも活用すべく提案が行われた。
- (2) スキーム 3 については、カンボジアは国家省エネ政策の承認を目前に控え、省エネ関連法制度としての S&L 制度規則案を改善、エネルギー管理制度整備に着手した。ラオスは省エネ首相令の 6 月承認を計画。S&L 制度案作成を急ぎ、エネルギー管理のための事業者指定基準策定に向けた調査を予定、など制度整備の進捗を確認した。特にエネルギー管理制度については、両国がさらに検討を前進させるために効果的な体制として“モデルプロジェクト”が提案された。